

「化学物質と環境に関する学習関連資料データベース」の更新について (お知らせ)

平成 17 年 8 月 29 日 (月)
環境省環境保健部環境安全課
課長:上家 和子(内線 6350)
課長補佐:荒木 真一(内線 6353)
担当:吉崎 仁志(内線 6358)

環境省では、平成 15 年 6 月に、ホームページ上に「化学物質と環境に関する学習関連資料データベース」を開設し、化学物質と環境に関する学習関連資料を提供して、リスクコミュニケーションの推進を図ってまいりました。

このたび、広く書籍やインターネット上の情報も含め、化学物質やその環境リスクについて、その分野の専門家でない市民が自ら学習する際に役立つと考えられる資料を集め、データベースを整理・更新いたしました。また、子どもを対象とした化学物質と環境に関する学習関連資料については、子どもにも検索、利用しやすいように配慮したデータベースを新たに作成いたしました。これらについて、環境省のホームページ上に掲載しましたので、お知らせいたします。

今後、新たな情報の追加等を行いつつ、これらのデータベースを維持し、化学物質と環境に関する学習関連資料について広く情報提供に努めてまいります。

1. 背景及び目的

化学物質やそれらを含む製品は私たちの日常生活に非常に身近なものですが、環境リスク(人の健康や生態系に影響を及ぼすおそれ)などの化学物質についての情報は多くの人々にとって極めて難解です。さらに、これらを理解するための化学物質と環境に関する教材などの学習関連資料は十分とはいえず、また、既存の学習関連資料も広く知れ渡っておりません。

このため、環境省では、平成15年6月に、公募により収集した化学物質と環境に関する学習関連資料をデータベース化し、「化学物質と環境に関する学習関連資料データベース」をホームページ上に開設しました。

このたび、広く書籍やインターネット上の情報も含め、化学物質とその環境リスクについて、その分野に関する情報が不足している小・中・高校生や、その分野の専門家でない市民が自ら学習する際に役立つと考えられる資料を集め、上記のデータベースを整理・更新いたしました。さらに、子どもを対象としていると考えられる化学物質と環境に関する学習関連資料については、子どもにも検索、利用しやすいように配慮したデータベースを新たに作成いたしました。

本データベースを通じ、化学物質と環境に関する学習関連資料の情報を広く紹介することにより、子どもも含め、環境リスクなどの化学物質についての理解が進むことが期待されます。

2. データベースの概要

本データベースは、用途等の分野（化学物質全般、食品添加物、ゴム・プラスチック、繊維、農薬・肥料、石けん・洗剤、化粧品・パーソナルケア、住まい（塗料・建材・接着剤・たばこ）、家庭用防虫剤・殺虫剤、ダイオキシン、石油化学等）、対象とする学年（小学生、中・高校生、一般）、学習関連資料の形態（冊子、書籍、ビデオ、CD-ROM、DVD-ROM、オンライン Web、遊具・もの教材）ごとに学習関連資料を容易に検索することができるほか、フリーワードでも検索することができます。検索結果として、「表題」のほかに、その資料の「制作者・発行元」、「概要」、「分野」、「対象者」及び「資料形態」が一覧表示されます。また、それぞれの資料については、「制作年」、「定価」、「入手方法」及び「制作者・発行者の連絡先」等を詳細情報として閲覧することができます。

また、子ども用のデータベースについては、あらかじめ小学生用の学習関連資料に限定しており、用途等の分野（上記データベースと同様）及びフリーワードによって検索することができます。

データベースは、下記の環境省のリスクコミュニケーションホームページより、御利用いただけます。

一般用：<http://www.env.go.jp/chemi/communication/index.html>

子ども用：<http://www.env.go.jp/chemi/communication/kids.html>

なお、掲載された学習関連資料は別添の掲載条件に該当する資料を幅広く対象としています。このため、資料の内容の一部が科学的事実と異なる場合や不適切な表現がなされている場合もありますので、活用には御利用いただく場面に応じて各自で御判断くださいますようお願いいたします。また、掲載した資料については、環境省が学習関連資料としてこれらの使用を推奨したり、内容を保証しているものではありません。

3. その他

この度、リスクコミュニケーションのホームページについて、更に親しみやすいものとなるよう、市民向け、子ども向け、専門家向けのページに分けるなど、内容の整理を行い、また、デザインも一新しました。是非御覧ください。

<http://www.env.go.jp/chemi/communication/index.html>

学習関連資料データベースへの学習関連資料の掲載条件

掲載資料の利用者は「小学生」「中・高校生、この分野が専門でない一般市民」を想定したものであること。専門家向けの資料は含めない。

指導者用資料については、教材とセットになっていること。

化学物質の利便性を認識しつつ、化学物質やその環境リスクに対する正確な理解を促すことに役立つと考えられる資料であること。

化学そのものへの理解を促すことを主目的とした資料でないこと。

おおむね 2000 年以降に制作または改訂された資料であること。

媒体は、冊子・書籍、ビデオ、CD-ROM・DVD、ウェブサイト、カードなどの遊具などであること。

雑誌の記事、特集でないこと。

誰もが入手可能であること。

有料、無料を問わないが、書籍を除き有料の場合は 10 万円を限度とし、常識の範囲内の価格であること。ただし、PRTR 関連データ、化学物質の毒性データ、工業統計などのデータ集又はデータベースについては、無料かつ Web 上で閲覧できるものであること。

冊子・書籍の場合、少なくとも「化学物質やその環境リスク」に関連した章を設けて化学物質に言及していること。その他の媒体についても、これを準用する。地球温暖化問題のみ、医薬品情報やその影響を取り扱った資料、BSE 関連情報のみを扱った資料ではないこと。なお、オゾン層破壊物質、食品添加物関連は含める。また、BSE 関連情報であっても、リスク論に展開されている場合は含めることとする。

内分泌かく乱作用を主な論点としている資料については、原則、「環境ホルモン戦略計画 SPEED'98 取組の成果（2004 年 9 月環境省発行）」及び「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について - ExTEND2005 -（2005 年 3 月環境省発行）」の内容も十分に把握された上で作成された資料であること。特定の商品の販売促進を目的としていないこと（商品名が入っていても情報提供の視点から作成されている場合は可）。

運動・行動の促進を主目的とした資料でないこと。

タイトルや目次に「撲滅、排斥、排除など排他的な用語が用いられている」場合は、内容を検討の上、採否を決定する。

特定の地域に関する（一般化されない）情報のみの資料でないこと（公害病についての資料は可とする）。

書籍については、以下の条件で検索し入手可能であるものを採用する。

国立情報学研究所の図書検索サービス（WebcatPlus）で「キーワード」と「年号」で検索しヒットした書籍について、下記の収集基準に合致し、原則、販売価格が

5,000 円以内（消費税を含まず）程度のもの。

キーワード一覧

化学物質

有害物質

環境リスク

化学 & 環境

天然 & 安全

物質 & 安全

環境ホルモン

かく乱物質

ダイオキシン

シックハウス

プラスチック

塩ビ

洗剤

添加物

農薬

検討委員、化学物質アドバイザーから推薦があったもの。